

山に向かう心の意識調査

実施期間：平成 27 年 3 月 15 日～6 月 30 日

実施対象： 公益社団法人日本山岳協会 自然保護委員及び自然保護関係者

公益社団法人日本山岳協会 自然保護委員会

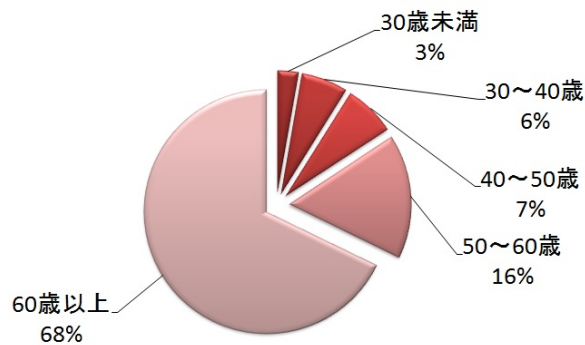
概要

この調査は、山の神に代表される日本の山岳における精神的な歴史や文化或いは民俗についての意識調査を行うもので、新しい時代の山での自然保護と適正利用のあり方を創り出し、山の自然と文化の社会的な価値の認識を深め、入山行動につなげる情報入手することを目的とし実施した。

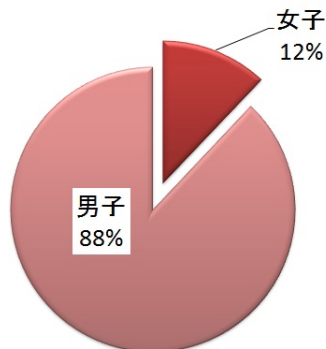
この調査は、平成 27 年 3 月 15 日～6 月 30 日の間、日本山岳協会自然保護委員のネットワークを利用して、アンケートの配布収集を行い、全国 9 ブロックから 24 都道府県の協力を得て、147 通の回答を取得した。

アンケートの回答内容

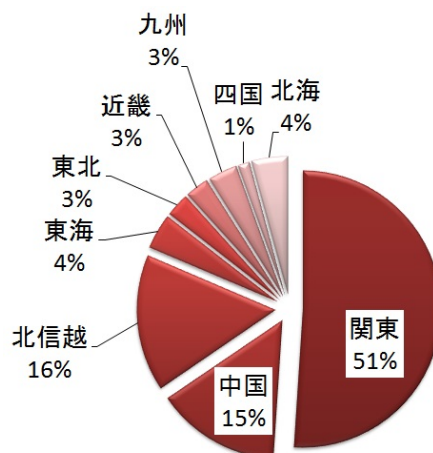
1 回答者の年齢層



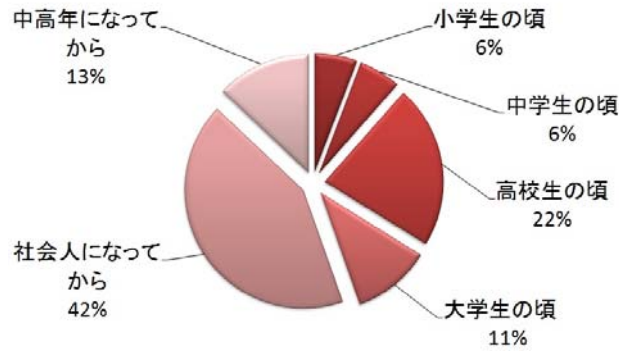
2 回答者の性別



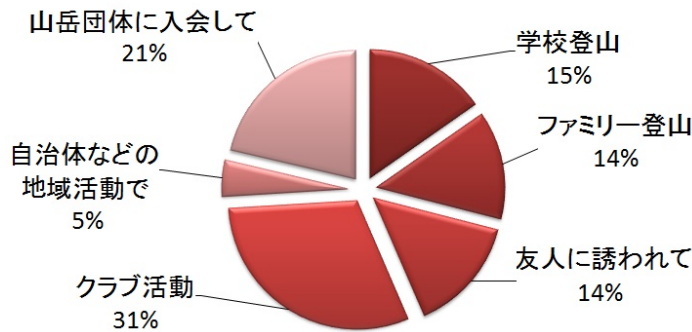
3 回答者の居住地



4 あなたが最初に本格的登山を始めたのはいつ頃ですか。



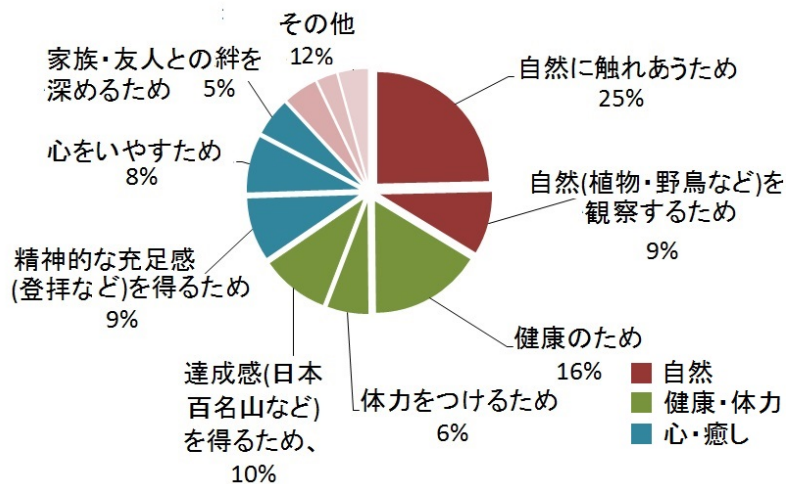
5 あなたが登山を始めるきっかけは何ですか。



その他のきっかけとして

- 体力維持のため
- 職場の環境で他スポーツが出来なくなった為
- 富士山に登りたいと思って
- 個人
- 単独
- 会社レクレーション
- 企業山岳部入部
- 昆虫採集から
- 幼稚園のキャンプ

6 あなたの登山の主な目的は何ですか。



仕事として (2件)

- 高校生クラブ登山顧問
- 調査

その他として（5件）

自分への挑戦

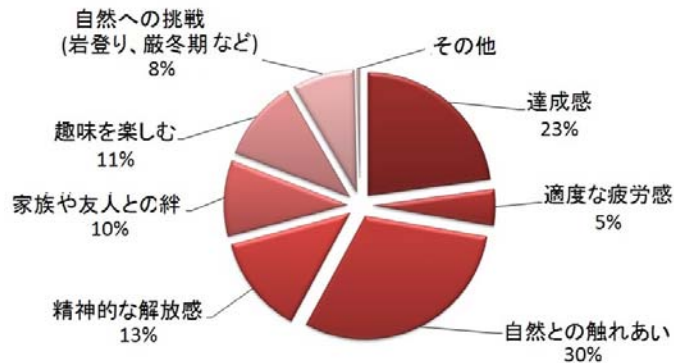
雪と岩、困難な登攀と、より高い山々への挑戦、そして夢の自己実現。

楽しいから

無雪期の山（地形）を知るため

空白

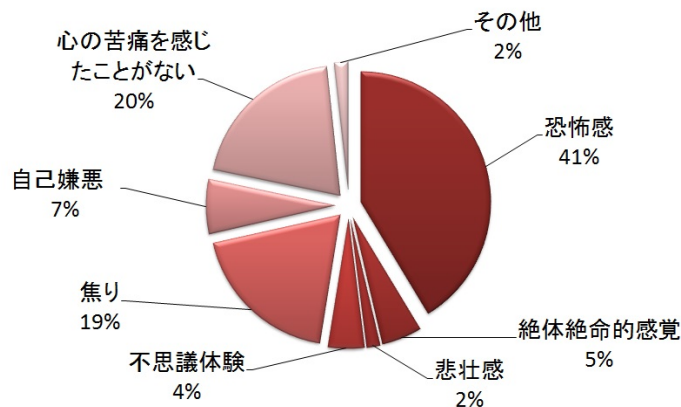
7 あなたが登山で得た満足感は何ですか。



その他として（1件）

クラブ生徒の自然理解、大学生活の充実

8 あなたが登山で心に苦痛（恐れ）を感じたことがあればお答えください。

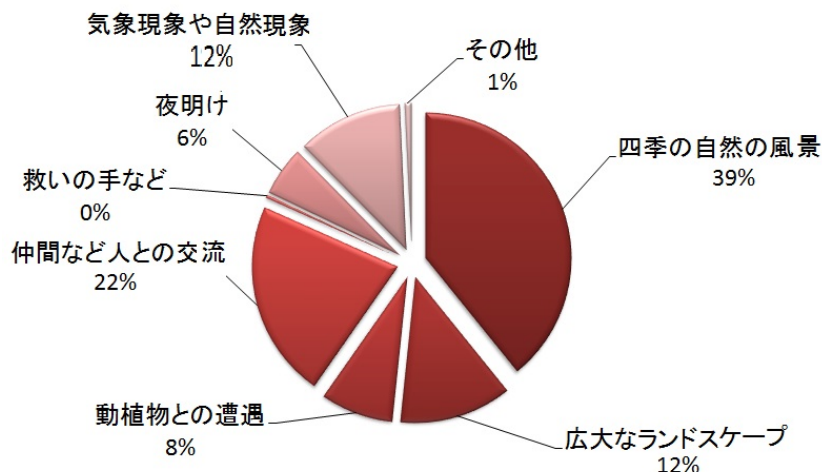


その他の体験又は、具体例について（回答 24 件）

- ◆ 登山中の急激な天候不順による長時間の停滞と雷雨。高密度ガスによる視界不良からの道迷い。
- ◆ 山の知識も準備もないまま安易な気持で入山。強風・雷雨に会い全身ビショ濡れ、怖さとみじめさ。自然の脅威を身をもって体験しました。若かったのですね。
- ◆ 孤独感：積雪期に悪天にあい、視界がなく下山路が見つからず 1.5 日停滞したこと。更にテント・シュラフが雨によりずぶ濡れとなり、テントをさかさまにして這松の隙間にビバークした。
- ◆ 山梨県の毛無山の金鉱跡の付近を歩いていた時に、ゾーっとした寒気を感じた。夕闇迫るころ下山口に到着しましたが、その時に元気のない母親と小さい子供が登ってゆき、泊まる場所もないのにと・・・思いながら帰宅しました。しばらくニュースが気になりましたが、それらしきニュースはなく、忘れましたがなぜあの時に声をかけられなかったのか。
- ◆ 冬季登攀を主に山行していたので、いつも厳しい自然条件から脱出する為の準備とトレーニングに苦痛を感じていた、この苦痛より自然への挑戦は、充実していた。
- ◆ 山で誰にも会わず下山していた時に道はあっているのか、クマは出ないか、孤独感を味わいそれが恐怖感に変わったことがあった。

- ◆ 若いころ、冬富士で避難小屋で仮眠中、異様な体験をした。それは血みどろになった男が寝ている私の前を通り過ぎ、水甕のある場所に一目散に駆け寄って、息を切らしながら、水を啜っている光景を、意識が朦朧としている中、恐ろしさだけが意識され、金縛りで身動きの取れない感覚味わった。数十年立ってもその感覚が記憶に残る。
- ◆ 自分のレベルを超えた登攀時、何時かは・・・という思いがあった。厳冬期の縦走時天候の悪化に遭遇した時 etc.
- ◆ 剣岳の岩登り
- ◆ 体力不足でパーティーについて行けず、h時砦次の目的地まで歩いた。
- ◆ 未知を既知にできることにともなう過程で遭うもろもろの困難をクリアした充実感に代表される。言い換えれば、不安をを何事もなくこなせた安堵感がこちよ。
- ◆ 谷川岳で岩登り中転落者を見た時
- ◆ 雪道で帰路が判らず、寝袋で2日間過ごし3日目に岐路に着いた。
- ◆ 大雪山の中腹で秋の台風後の倒木帯で道を失い、夕暮れも近くなり、熊の恐れもあり、焦りと恐怖感で森の中を彷徨い、暗くなる直前に道を発見した時の安堵感は忘れられない。
- ◆ 天候の悪化に対応する恐怖感。単独山行の場合の単独恐怖感（特に若いころ）。
- ◆ 雪崩にあったこと他。
- ◆ ヒグマとの遭遇、道迷い、集団登山時における天候の急変
- ◆ 子供のころから山の中で育っているので、対処方法は両親等にならっていたので、1人で登山するということに、普通恐怖感は感じなかった。
- ◆ 暗さ、寒さ、地形・・・ 自然の厳しさを知った⇒少し謙虚になった。⇒自然への畏敬と自己存在本能を再確認。
- ◆ 絶体絶命的感覚：西穂から独標への鞍部で滑落した時
その他：ブータントレッキングで高山病と熱中症から食中毒にかかり約1週間食事を取らなかった時
- ◆ 台風直下で山行した時
- ◆ 錫杖岳の第3ルンゼで胸部だけのハーネスで胸部を垂朴され、もうダメかと思った。まだ始めたばかりの岩登りでザイルなど使いこなせなかった為
- ◆ 自己の知識や技術に対する未熟感
- ◆ 雪崩が怖い

9 あなたが登山で得た感動(喜び)体験があればお答えください。



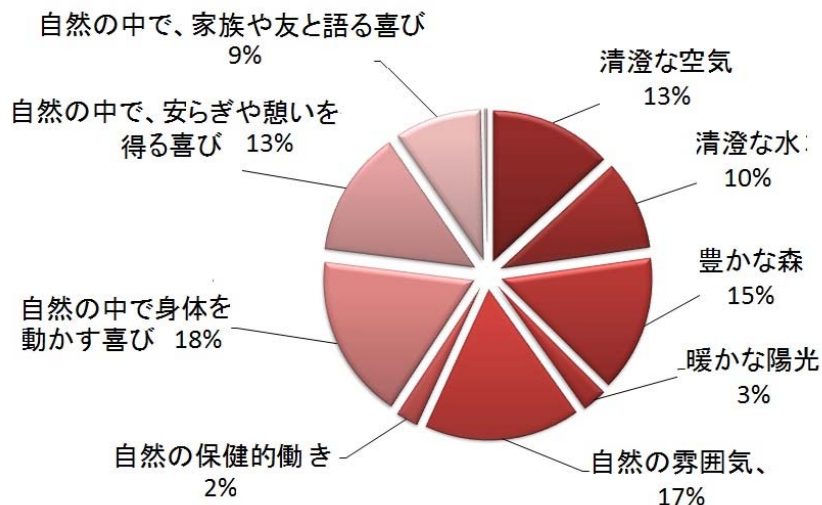
その他体験又は例を具体的に教えてください。（回答 22 件）

- ◆ 10年前、100名山達成は大部分単独行でしたので、山の自然には感動していました。その後、かたつむり会に入り、団体登山が大部分となり、仲間との交流が楽しく思います。
- ◆ 春夏秋冬問わず同じ山を登り、常に新しい空間を感じた。
- ◆ 充実感や達成感
- ◆ 山岳会に入会して楽しさ・達成感・つらさも皆で共有できる仲間がいることの素晴らし

さ。思い・感じ方は違っても皆山が好きなのです。

- ◆ 自然の厳しさと美しさ：岩稜、雪稜の厳しき、溪谷の水の美しさ、紅葉の彩・・・など
- ◆ 同じ山でも春夏秋冬、四季折々の姿
- ◆ 思いがけない植物（花など）に出会った時はワクワクします。
- ◆ 最初の大キレット越えで一緒に行く予定の友人が前日キャンセルし、一人で南岳小屋まで行き、明日一人で行くのは無理と話したら、ほかのパーティーの方から一緒に歩きましょうと声を掛けていただき、北穂高小屋まで同行させていただきました。感謝しました。
- ◆ 同じ山を登って、登山コースや四季によって異なる景色・樹木や草花の変容などに感動することが多い。
- ◆ ヒマラヤの山々を見たときは、麓の住民が神と崇める気持ちがよく理解できた。優しい面も見せる日本の山とは違うが、本当に神々しい神を感じた。
- ◆ 生命の充実感
- ◆ 昨年、長女4才との大山登山。6合目までだったが小さい子供の頑張りに感動した。
- ◆ 昨年10月頃に初めて登山したが紅葉が美しかった。
- ◆ 自然のめぐみのありがたさ。
- ◆ 秋季3000m級の景観（山頂は白、中間は赤、麓は緑）そのコントラスト、冬季の雪景色。
- ◆ 同じ山を登ってもきせつによって感動が違う。植物、動物、地形、天候、すべてが感動の対象である。
- ◆ 最初に登った比婆山連峰の吾妻山に咲くキンポウゲの美しさに魅了された。
- ◆ 沢の途中でのビバークの野趣（焚火の炎、峡谷に立ち上る煙、星空）
- ◆ ツキノワグマに待ち伏せされた（5メートル）。
- ◆ ブロックン、ライチョウ。オコジョ、カモシカの遭遇
- ◆ 薬師岳で太郎山を流れ落ちる雲の素晴らしさは忘れることなくとても感動した。

10 あなたが登山などで自然の恩恵を強く感じことは何ですか。

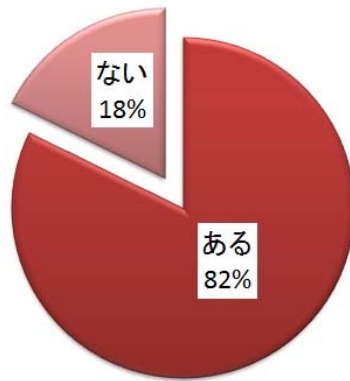


その他の感じたこと又は、例を具体的に教えてください。（回答11件）

- ◆ 15年間単身赴任で、家に帰るのは月に1～2度位、仕事や単身赴任の気分転換に登山をすることで出来た。
- ◆ 高度が上がるにつれ、張り詰めた空気、空の青さを肌で感じた。
- ◆ 太陽と風と空間
- ◆ おいしい空気、水、緑の森。人が元気になるすべてのもの存在するところ
- ◆ 持っていた無図が少なくなり、不安を感じていた時、黒部川源流の水に救われる思いをしたことがあります。
- ◆ 人工では作れない美しさに触れたとき
- ◆ 登山は新鮮な酸素を吸うことができ、身体を動かすことにより、心身の健康づくりに効果がある。

- ◆ 心をいやしてくれる（山へ行き、山で戯れることにより）
- ◆ 山の空気に同調することによる。心の安らぎ。
- ◆ 日常の雑踏から解放される。ストレス解消。

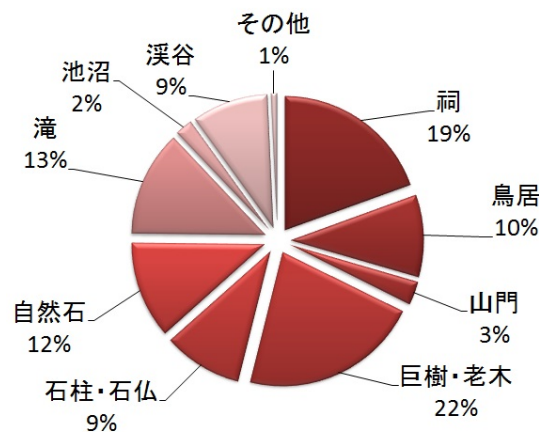
1 1 あなたにとって地元の山がありますか。



あるとお答えの場合、山の名前と場所を教えてください。

大山	くじゅう山系	鋸山	三浦アルプス
高尾山	ユガテ	権現山	三嶺
丹沢山塊	伊吹山	現上山	秋田駒ヶ岳
塔ノ岳	宇津峰山	後立山・爺ヶ岳	上信越
岩手山	雲取山	御前山 奥多摩	針ノ木岳
常念岳	燕岳	御前山、三頭山	陣馬形山
神峰山	奥多摩	高千穂峰	石鎚山
八ヶ岳	岐阜県やまびこ	高鈴山、神峰山	打吹山
丹沢山	那須	北アルプス	子の権現
丹沢山城	那須岳	北八ヶ岳	権現山
丹沢山系	飯綱山	堀抜山	塔ノ岳
男体山	飯豊連峰	有明山	
虫倉山	比婆山	両神山	
朝日連峰	比良山系	六甲山	
鳥海山	武山	北アルプス	
塔の岳	房総丘陵	北八ヶ岳	

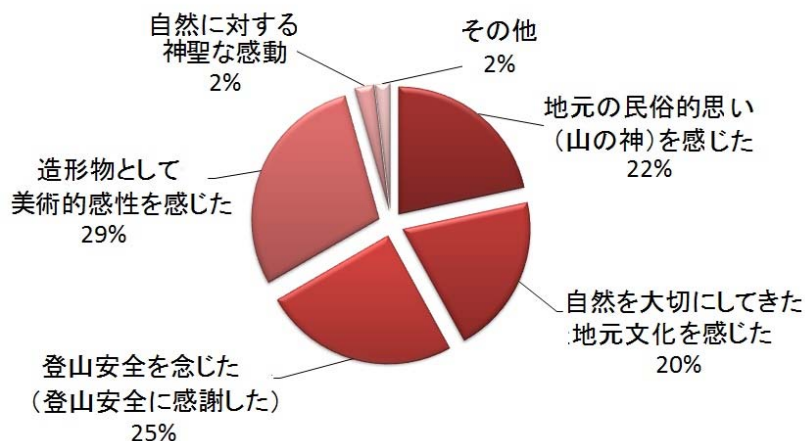
1 2 あなたは、地元の山へ登山中に次の象徴物を見たことがありますか。



その他の象徴物又は、例を具体的に教えてください。（回答 15 件）

- ◆ 五百羅漢という巨岩。
- ◆ 地元の山とはどのようなものですか。初めて聞く言葉です。
なし：質問の趣旨がわかりません。特に地元、象徴物とは何ですか？目に入るものだけで
すか？心に感ずるものは対象外ですか？いつも歩くことで精一杯です。
- ◆ ブナ、ミズナラ、トチの巨樹
- ◆ 沢・岩壁
- ◆ 丹沢表尾根が修験道の場所であったという名残で、丹沢表尾根の中央部にある行者ヶ岳
の石仏。今は消失して石板の碑に置き換わっているが、役行者の姿を刻んだ石像を見たこ
とがある。
- ◆ 山の神の祠など
- ◆ 雪溪
- ◆ 高山植物
- ◆ 神社
- ◆ 山頂に神社、中腹にも神社がある。
- ◆ 北海道の山は、登山の歴史が浅く、山岳信仰的痕跡のある山は少ない。
十勝岳連峰主峰の「十勝岳」山頂に、山麓の寺院が建立した石柱が存在するほか、有史以
来火山噴火による犠牲者の慰霊碑等は存在する。
- ◆ 幼いころからあった（タケツツジ・・白い花）
- ◆ 山そのものが神体のものもあります。

13 あなたは、地元の山へ登山中に見た象徴物にどのように接しましたか。



その他のご意見又は、補足説明などがあれば記載ください。（回答 10 件）

- ◆ 登山の短い時間の中で「民族的思い」「地元文化」「美術的感性」「神聖な感動」は持て
ません。都会にはない自然の中で調和して生活している人々の知恵・融合性・一体感で
す。
- ◆ 住宅街などに囲まれた豊かな自然
- ◆ 都会に住んでいるので地元の山がありません。
- ◆ 山頂を神聖の場として大切に保存してきた。
- ◆ 歴史の中で地元の人々が戦った史実を表している、と感じる。
- ◆ 世界平和を感じた。
- ◆ そもそも信仰対象が限られる。あえて言えば、象徴火山活動が積み重ねてきた自然の造形
や、人工物が少ない北海道の山岳地帯の原始性。
- ◆ 頂上に行き着くまでに祠が数か所あり、登りつつ頭を下げたものです。
- ◆ 1300年の歴史とそれを守ってきた人々の心。
- ◆ 山と人の関わりの歴史、
- ◆ 登山の短い時間の中で「民族的思い」「地元文化」「美術的感性」「神聖な感動」は持てませ

ん。都会にはない自然の中で調和して生活している人々の知恵・融合性・一体感です。

14 あなたの地元以外の登山で民俗文化の象徴物を見たものや感じたことがあれば記載ください。

山名	見たもの	感じたこと
神奈川 幕山	山の神と書かれた鳥居	山の神に感謝の念を持たねばと思った。
雨飾山	石仏、石祠	信仰の山
英彦山	神社・鳥居・行者堂・石畳	修験場として栄えた霊山の面影が残っている。
奥秩父十文字峠道	一里塚の石仏	昔の人の峠越えに対して思った
屋久島	縄文杉	時間の流れ
	自然杉の古木・縄文杉	良くぞ現代まで生き残っていてくれた・・。
岩木山	山の神	信仰
熊野古道	石仏、山村集落	自然を守る精神、水との関係
月山	祠	修験道
	月山神社	同上
御岳山	神社、神像	同上
御嶽山・月山	修験者 石碑	山岳信仰の有様
甲斐駒ヶ岳	山頂の祠、剣	
高隅山	岳まわり（青年の人は3月に数人で、米・塩・焼酎を持って岳に登山していた。）	大人におなったら自分も行くと、幼い時思っていて青年（中学2年）になって実行し。充実感をともなった。
高千穂	山の神	神代の伝説
三峯山（秩父）	巨木、神社	
錫杖岳	錫杖	岩峰を信仰のために極めたことに畏敬の念を感じた
仙人岳	洞窟、各種機器	マンガン鉱あと、各沢の道所にみられるこのよこのような人知れぬ谷合に労務をつないだ人たちがいた。
浅間山	山門	入山時には無事な登山を願い、下山時には無事に感謝で頭を垂れた。
早池峰山	権現様	民族文化を脈々と受け継いでいく素晴らしい素晴らしい精神
足尾山塊 根利	集落跡	三寸小屋宿と同じようにここは古河鉱山の集落で往時の繁栄がしのばれる。
大山	大山寺	歴史の偉大さ
大峰山	仏像	荘厳
大峰山脈 八経ヶ岳	弥山小屋 宿坊	時代を通り越して、いまさらながらその歴史を感じます
地藏岳（鳳凰三山）	オベリスク	
筑波山	筑波山神社	山そのものがご神体
	山腹の大鳥居	山全体が神体とされている
中部山岳地帯	梓川・黒部川・赤石川	清らかな流れ
鳥海山	神社	信仰の山
登り口付近の神社	地元地域の人たちの信仰心が宿っているような気配を感じた。	先人たちが山の自然、風土、生活、動物を守ることとそれらからの恩恵で自分の命があるのだとのありがたみを感じ、その感謝と未来に託す思いを山＝神様と見てきたの

山名	見たもの	感じたこと
		ではないだろうか。日本は島国であると同時に山の国という神聖の場だとも思う。
東北の山	山頂におかれた祠や神社	現在でも続く山岳信仰を強く感じる
奈良県上北山村周辺	男根の木彫り	素朴な人の生活を自然の中に感じていたのだと思った。
日光男体山	二荒山神社と頂上の祠	神社の宝物殿にある頂上で発見された古銭やその他の残存物
八ヶ岳	祠	登山の安全、事故がないことを誰もが祈っているということ
八海山	山頂付近の刀剣の数々	霊的な空気が漂う畏れを感じた。
富士山	冬季5合目までの登山道で浅間神社など富士講の名残の神社など	昭和初期までの富士講のにぎわいや当時の富士登山に対する人々の想い
	講中の宿舎や登山道脇の祠や碑	いにしえ人の山への畏敬の念
	素晴らしい山容	自然美しさ
霧島	御神楽	
木曾駒ヶ岳	二つの祠（木曾側の祠）（伊那側の祠）	無事の登山、下山を見守ってくれていると感じた。
立山	山頂の祠	地元の方々の山岳信仰の強さ
	神社の建立	自然環境の厳しい山岳信仰を痛感する。
両神山	狼のこま犬	昔は狼が住んでいて、それを祭っていることを思った。

15 あなたは「山神（または山ノ神）」など民俗信仰と山岳自然保護をどのように思いますか。

あなたのご意見を記載ください。（回答 85 件）

- ◆ 良いと思います。
- ◆ 山に対する敬虔な気持ちがあると思う。山を汚すのは論外であり、自然保護は当たり前だと思う。
- ◆ 先人たちが山の自然、風土、生活、動物を守ることとそれらからの恩恵で自分の命があるのだとのありがたみを感じ、その感謝と未来に託す思いを山＝神様と見てきたのではないだろうか。日本は島国であると同時に山の国という神聖の場だとも思う。
- ◆ 信仰の象徴物、自然の保護は大切です。其れは知っている者だけの事で、多数に大切さを広めるにはその場所に行き、直接見なければ解り得ない事。道路の整備等は手段として必要不可欠であり知る者にチャンスが生まれるのを考えれば、「保護＝手着かず」はあり得ない。保護は登山者のモラル次第だと思う。
- ◆ 民俗信仰も自然保護も根は同じで自然を敬う畏敬の念
- ◆ 自然保護と山岳信仰を大事にしていきたい
- ◆ 八百万の神を敬う＝自然への畏怖、これらの総称として「自然保護」
- ◆ 山ノ神信仰と山岳自然保護は何かつながっている感じがします。
- ◆ 火山、水、神 それぞれへの祈りを大切に、そして自然を大切に守り保護し残すことが、いつまでも気持ち良く山と関わることだと思います。
- ◆ 民族信仰を大事にするのであれば、山に入らず地元の人と交流することだと思います。故意＝無理に信仰と登山を結び付けていませんか。
- ◆ 古来より、山の神という信仰の象徴を作って自然との”いい”関係を築いてきたのだと思います。精神的にも物質的にも粋なやり方だったと思います。もちろん信仰とはいえ、そのような心の持ち方や自然との接し方が物質的な自然保護にも十分役立っていることは自覚されていたでしょうし・・・。
- ◆ 山の神との遭遇時には登山安全ろ無事に全員下山出来るよう祈るのが恒例です。個々の感性で山の神に接するか（信仰心）？節する場所により異なると思います。
- ◆ 地域の信仰は語り継がれるべきだと思います。

- ◆ 自然保護は時代と共に変わるなと思います。私が登山に無中に成った40年代は自然保護より登山ブームが先行していたが。
- ◆ とても大切なことで誰かが推進し守るべきものと考えます。
- ◆ 自然を利用して生きていく原点に、山の神を据えて心の支えにしている文化。人間の弱さを集団で補強して、協同して社会を守っていく力であると考えます。
- ◆ 民俗信仰は、地域の古来伝統を元に活動するものであり。常に地元の長老等の言い伝え等によっての活動。山岳自然保護は、その時代の変化に対応した活動であり、個人で活動する場合もある。
- ◆ 古来から伝承されてきた慣習の中に、日本人として何の躊躇もなく山の自然への尊敬の気持ちを抱く。
- ◆ 特に感じない
- ◆ 日本のこれ愛の山岳信仰を尊重することが、自然保護につながる。
- ◆ 山の自然を大事にしていくことが、山の神や地域の信仰につながっていると思った。
- ◆ 山への信仰が自然保護につながる。
- ◆ わからない
- ◆ 難しい設問であり、考え方や解答は多岐に亘ると思われる。山岳自然保護として考察するならば、ありのままの姿を後世に伝えるべきで、思想信条を差し挟んだ解説は慎みたいと願う者である。
- ◆ 島国日本は山に国境がなく自然の恵みを与える場所と同時に火山を恐れる場所の両面を持っている。自然と共存する場所では自然保護が必要であるが噴火など自然災害に力を見せつけられると自然保護の限界も感じる。自然災害がおきないように山岳信仰があったとおもう。気象の温暖化防止に含めた自然保護への取り組みが必要と思う。
- ◆ あまり登山中に山岳信仰を意識したことがないが、自然に対する恐れを感じて、自然保護に努めている。
- ◆ 自然への尊敬
- ◆ 人の営みに必要なもの
- ◆ 自然崇拜の名残りとして大事なものと思う。ひいてはそれが自然保護につながっている。
- ◆ かつては自然とともに生きており、自然破棄、自然保護という概念すらなく生きることは自然を守ることに直結していたと思う。
- ◆ いいと思う
- ◆ 大事にするべきものと考えます。
- ◆ 山の厳しさを恐れ敬い、恩恵に感謝し、共に生きようと山自然を守ってきた先人の信仰心に感謝して山に入っています。
- ◆ まったく異質なものだが、自然を大切に・・・という根底は同じかも。
- ◆ 尊重すべき
- ◆ それぞれの山に神がおられ民を守って下さっています。山に入る前に神に礼をしてはいるようにしています。そのことはそこに住む動物、植物にあなたがたの住む領域に私も入れてほしいという挨拶もかねていると思っています。
- ◆ 民俗信仰は、自然の大切さを実感でき、山の恵みや清らかさを肌で感じるができる。これを感じることはルールも不要となる。従って自然保護そのものである。
- ◆ 山などの自然、風景、環境に畏敬に念をもって接することにより、より大事にしようと思う心が環境の保全保持につながるのではと思います
- ◆ ヨーロッパアルピニズムと対極にある日本の山岳（おそれ、敬い、憧憬）を登山者として歩くと、我が身を自然とどうかしその成功は、山の神々からの、ゆるし、キョカ、をもらえたと、考えるようになった。チャレンジはこれをたかめるが、自然からのおくりものである。
- ◆ 人身と一体感がある。
- ◆ 山のめぐみ、自然を大切にする。
- ◆ 民族信仰と山岳自然保護が両立できるのが最高で、そのように対応を模索すべきと思う。
- ◆ 自然との共存共栄の姿（自然の恵みに感謝するとともに自然災害等の脅威から守ってもらう）
- ◆ 7月に安全とごんを祈祷してアルペン祭をロッジを借りて催していたが、今年の総会で一泊してその地区の山岳神社で祈祷するに代わった。どこであれ山に向かって一礼するそんな気持ちが必要です。
- ◆ 山の神の行事により山との付き合いを大切にすることにより、自然と自然保護になっていった。
- ◆ 山岳信仰のある山は、登山道も整備され、山頂には神社や祠などがあり、自然環境を大切にし

ていることを知る。

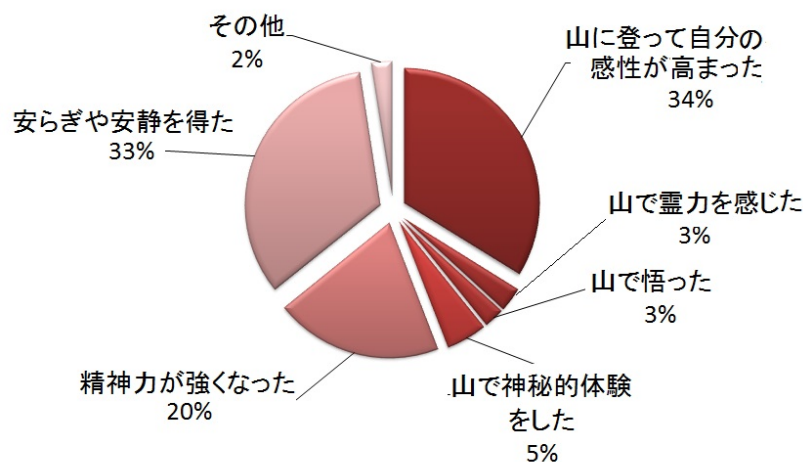
- ◆ 土地に根付き、山を守護神として、また豊穰を願い、歴史を重ねてきた「山神」と山岳自然後保護と、（思想的にまた精神的に）相容れないエリアがあると思います。
- ◆ 昔の人が自然を利用しながらも、過度な利用を慎み、自然を敬いつつ、永続的な利用を心掛けてきたことに尊敬の念を覚える
- ◆ 山の神の民俗信仰には深い関心があります。両者は同じもので、民俗信仰に従って、山の自然保護も考えられてきた。
- ◆ 先人が尊び崇めてきたことは、現代にも相通じると思う。したがって、山岳における自然保護は当然のこと。
- ◆ 古来「山」は生活の糧を得る場であり、その恵みへの感謝と心安らかな生活を維持するために森羅万象を司る神々への畏敬の念が山岳信仰を司っていたと考える。山々や樹々など八百万に神が存在することがその証左。現在山は「生活の場」を離れ「観光資源」となっている感もあるが、忙しい現代人の心のオアシスとして山の環境を守っていく意義は大きいと思う
- ◆ 神仏習合した修験道として山岳が聖域とされてきたのが多いように感じる。
- ◆ 自然に対する尊敬の証
- ◆ 単独で山に入っていた事が多く、恐怖や、不安を感じた時に、大きな樹に出合った時には、守られている安心感がある。昔の先人も、大きな樹、雄大な山には神がいて、守られている安心感が得られたのではないかと思う。花に出合った時にも励まされる。山、樹、花、それらを神と崇める事が民族信仰に繋がる事は理解出来るし、それらを崇め大切にすることが山岳自然保護と思う。
- ◆ 心がホットする。
- ◆ 必要。神聖なイメージがある。
- ◆ 民俗信仰を壊したらいけない。
- ◆ 環境的に自然保護は重要。マナーは大切。
- ◆ 大切な文化である。継承してゆくべきである。
- ◆ 密接にかかわっていると思う。
- ◆ 先住民族（アイヌ民族）による、山岳や自然に対する信仰や畏敬の念を表現した呼称は、山や川などの名称として残されている。これらは、北海道特有の文化として自然保護と同様に大切にすべき。
- ◆ 今はそのような文化も消え去っている部分もあり、祠等や登山道の整備が必要。古い人（80歳以上の方々方々教を乞うて、今で具体的に残すべき運動が必要。（山の神にまつわる話等も必要。）
- ◆ 不思議な、経験は過去にあったのけど、特に山の神等強く意識はしていない。自然のままが良い。
- ◆ 日本人が古来より伝えられて来たことを知らぬうちに身につけていて、伝統の自然を大切にしようと思いついていたと思います。
- ◆ 里山などで山の神に出会うと古くから人々の側にあつて崇められ、また人々も山の恩恵を受けていたと思います。心の拠りどころであったと思います。今はそれを感じる事もなくなり、里山は荒れ放題です。地域によって昔ながらに大事に継承されていっているとホッとします。
- ◆ 私は宗教には関係ないが、山ノ神など民俗信仰と自然保護は大きな関係があると思っています。
- ◆ 山の神は、民俗的な側面と宗教的な側面があり、意見の分かれるところ。それを具体的に意見を求めるのは難しいものである。
- ◆ 山岳信仰は山の雄大さ、自然の偉大さを感じたことから発したものであると思われるので私も同じ思っている
- ◆ マタギなどの狩猟生活者の信仰心と登山とは一線を画すべきものだろう。
- ◆ 美しい山岳景観を見てそこに神々しさ、畏怖を感じ、山々が与えてくれる水や自然の恵みに感謝することから神として信仰の対象＝山の神としていったものと思います。そのような山々は、神聖なものとして、汚してはならぬものとして代々守られてきたものと思います。我々岳人も、山々の言い尽くせぬ景観の美しさ、そこに生きる生物の豊かさ、多様性を知りました。そしてこれを何んとしても保全していきたいと思っている点では共通点があると思います。
- ◆ 古くから山を神と崇め、山から多くの恵みを受けてきた。そうした気持ちを自分の登山で常に意識をしてきた。
そもそも、登山は自然破壊の始めなのだ。謙虚な気持ちで山に入るべき。
- ◆ 民俗信仰により山岳自然が保護されている。
- ◆ 山の神を祭ることなどを通して山への敬意、その自然を守る意識が深まることには深い共感を

覚える。

- ◆ 自然への限りない畏れと生かされている感謝の心を感じました。自然の中で生かされている里人や山人が生活の中で、森や里山を大切にしてくられた様を感じました。
- ◆ 歴史的事実として受け止めているが、人集めの材料としてほしくない。自分の登山はスポーツ的なものが中心。
- ◆ 民俗信仰はその地域または信ずる人それぞれの問題で特にコミットはない。また自然保護は大切だが、過度な自然保護思想は返って「ヒト」に我々にとってなんの得もないと思う。
- ◆ 行事への参加や山岳信仰への入信迄は考えないが、登山を通じ、間違いなく心の中に何かを得ている。自然に山を敬う気持になる。当然その地は美しくなければ行けない。自然保護・保全は必要とである。
- ◆ 古代から続く聖なるもの
- ◆ 心が新たになり、崇高に思いを感じる。山岳自然保護は登山者として当たり前のマナーです。
- ◆ 大切にすべきです。山林で木材を切るときにも山の神に安全をお祈りします。
- ◆ 自然を崇拜し人はそこから生きる力を頂いてその恩返しに年間に奉納を行ってきたり地元の自然を保護してきたと思う。
- ◆ 自然への尊敬の念、気持ちを静め山登りを楽しませくれる意味で大切。
- ◆ 信仰として、すう高なところは残しておきたいが、そこにたどり着くまで、なかなか困難なところがある。
- ◆ 山神など山岳信仰はありませんが、人間は自然の中で生きているものなので自然を大事にしたい。
- ◆ 遭難碑は個人のもので山頂周辺にはふさわしくない

16 あなたは、心に感じた山への思いはどんなものがありますか。

(複数回答可：2つ以内でお答えください)

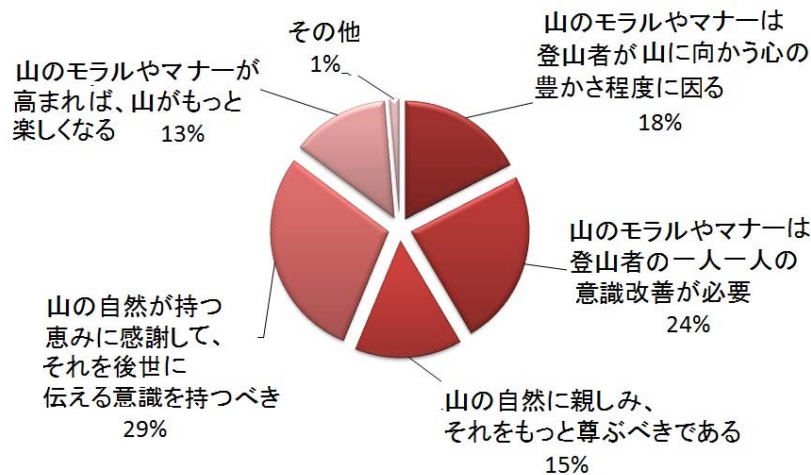


その他の思い又は、補足説明などがあれば記載ください。(回答 18 件)

- ◆ 自然の中に入ると不思議と心が安らぎ癒される。そして家族に優しく接することができるのです。
- ◆ あなたのアンケート=質問は回答者にどの様な導きをするつもりですか？アンケートとは一般的で良いように思えますが、設問者の質問の内容で作為的な方向へと導くものです。
- ◆ 心身の調和はできる場所として、気力・体力維持の補給を行う。
- ◆ 山に登ることにより自分でも頑張れば何かできるということを感じることができる。山にはいつも感謝の心で接している。
- ◆ 真っ暗闇、雷、強風などの自然の力に感動したり、怯えたりとの体験が素晴らしい
- ◆ 最初に登った夏(ご意見)
民俗信仰は、自然の大切さを実感でき、山の恵みや清らかさを肌で感じるができる。これを感じることはルールも不要となる。従って自然保護そのものである。山(北八ヶ岳)でにわか雨後の日の光と池塘の清らかさは、生まれて初めて見る景色は天国であった。
- ◆ 自然環境の楽しさ、素晴らしさを感じる。
- ◆ 山の大自然の移ろい(たとえば春夏秋冬、日の出から日没、等々)にただただ感動した

- ◆ 自分との戦いや苦難を乗り越えたのち達成感と充実感から得られる精神的成長
- ◆ 山だけに限った事ではなく、地球的にも、人間だけの物ではなく、全ての動物のための地球であり、山であると思う。動物の山に、どんどん人間が入り、様々な生き物が生息する川は三面コンクリにしてしまう、無抵抗な生物に傲慢な人間が住処を奪っている事に気が付いて欲しい。
- ◆ 生き抜く力が芽生える。
- ◆ ある一定の自然条件が出たときに、体の全身全霊でそれを受け止められれば、山で悟ることができる。
- ◆ 夜に霊がが麵お前に立ったり、登山中（一人登山）にそれが後からついて来たり、青白い光（輝かない）がついて来たり、このときは車がエンコシ、数十日後は車にはねられたりした。
- ◆ 自然に接すれば良いと思う。しいて取り上げる必要はない。
- ◆ 登らせてもらっているという感謝の気持ちに、いつも頂上ではおそわれる。
- ◆ 下界にいては想像もできないが高嶺では人知れずお花が咲き乱れているのだと思うと、乾いた日常生活にあっても豊かな気持ちになれる。
- ◆ 厳しい登山では自然の厳しさを教えてもらい。好天の登山では山の眺望の凄さ、爽やかな空気を与えてもらった。そう言う事です。
- ◆ ブロッキン現象

17 あなたは登山者のモラルやマナーについてどのように思いますか



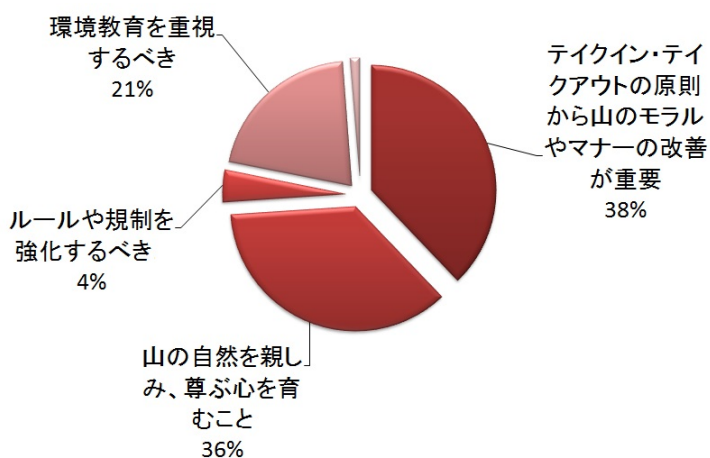
その他のご意見又は、補足説明などがあれば記載ください。（回答 15 件）

- ◆ 山に入ってタバコの吸い殻一つでも落ちていたら何とも興ざめ。吸いながら歩いているのだろうか？
- ◆ 高尚な回答はありません。
山を傷つけない、汚さない、そして安全登山の励行です。
このためには山に人を入れないことです。
- ◆ 先人、地元の方々が大切に守ってきた山に入らせていただいている。という気持ちが、モラル、マナーにつながっていると思います。
- ◆ モラルやマナーは他人がどうこう言うべきものではなく、登山者の意識の問題であり、良し悪しを判断する尺度も登山者により異なる。
- ◆ 山で出会う全ての人を家族であり、山は自分の庭であるとの考え方を基本としたマナー（思いやりや山を汚してはいけない）
- ◆ このところゴミは少ない。若者も一部を除いて心得ている。ただ高齢ツアー参加者に現地の人達を見下す傾向があり、地元の人達からヒンシュクを買鵜ようなことがある。心したいものだ。
- ◆ 次の世代の人々が山の自然を満喫し、感謝する心が育つよう心がけるべきである。
- ◆ 特に海外からの登山者
- ◆ 安全登山や山のルール・マナーを一定程度会員に教育してきた山岳組織の地位の低下が危

惧される。日山協・北海道山岳連盟の最も強みとしてきた組織網である地方山岳会が、既に存続の瀬戸際にある。

- ◆ 車で行ける山が増えた（昭和 40 年代～）林道、ロープウェイ等で、登山者は増加したが、ゴミだらけの山になった。
- ◆ モラルは最大公約数、マナーは最小公倍数。社会：個人の枠組みの表現こそ大切。山に入る以前の問題。
- ◆ 外国人ツアー団体が押しかけ、登山道以外に勝手に入り込む。草花を踏み荒らす。特に中国、韓国。旅行会社等指導が必要。
- ◆ 深田さんの百名山にとらわれて、ただ登頂の記録を稼ぐだけの登山者はヤマを理解し、愛していると言えるのだろうか。登山者が「山に帰ってきた」との意識で山に入ればモラルも自然に向上するのではないかと思う。
- ◆ 質問についての 5 択がいま一つピンと合っていない。自然の中で行動する時はどうするかの問題。普通の行動の中でマナーが守られている。そう言う状況を作る為に啓発していくことが必要。～すべき～必要といった押付けはダメだと思う。
- ◆ 今、山に行く人（行ける人）は多少なりとも生活や心に余裕のある人と思う。

18 山の荒廃や汚れ（放置ゴミ、トイレ）の問題の解消に向けたあなたのご意見を伺います



その他のご意見又は、補足説明などがあれば記載ください。（回答 30 件）

- ◆ 自然を破壊しない、排泄物の処置が可能、等、種々の要素から山岳の自然が許容できる人数以内に制限シナオと自然破壊に繋がる。費用を掛ければ増やせる要素が制限の要因で、入山料で制限を増やせるなら入山料を徴収するという手もある。（そんな混雑する山域には行かないと思うが）
- ◆ 国立公園等の入山者数ノ制限。予約制にする。
- ◆ ゴミ持ち帰りは当たり前のこと。
トイレも仕方なく用を足した場合ティッシュは必ず持ち帰り。一人ひとりの自覚が一番必要なのかも。
富士山に自販機あることがおかしい。入山料義務化賛成。トイレも有料にすべき。
- ◆ 山の荒廃や汚れは、都会・自宅と同じことです。
従って、昔の道德教育が必要と思います。
- ◆ ゴミを持ち帰り易いようなごみ入れグッズの開発すべき。
自然保護、ごみ対策モラルの運動を継続展開
- ◆ 誰もが持ち込んだものはすべて持ち帰るを実行するだけで決してごみは出ない。
各自がそのことを自覚し山に感謝の念を持つことが大切だと思う。
- ◆ 山の果たしている役割を教育し、保護と活用の大切さを教えることが大切だと思います。
- ◆ 施設に税金をかけるべき。バイオトイレの普及。持ち帰りトイレの回収場所の設置
車での日帰りはいいが。持ち帰りができる。
- ◆ どの山でも、入山料を取り、トイレや登山道の整備にあててほしい。
- ◆ 私自身も反省しています。
- ◆ 指導員腕章は非常に効果的であり、今後も引き続き活用させていただき、成果につなげたい。

19 若者と高齢者との登山の仕方、マナーに関する意識の違いについて、あなたのご意見を伺います。
(回答 86 件)

- ◆ 年齢層によってマナーが異なるとは思いません。良い指導者にマナー教育を受けた人は良いと思いますし、若い人でもそういう人は居ます。
- ◆ 最近自分が年取ったせいか、若者を見かけるようになった気がする。年齢によってマナーの良し悪しがあるわけではなく、高齢者でも若者でもマナーの悪い登山者、良い登山者居る。技術に見合っているかどうかということも同様、年の功は通用しない。
- ◆ 基本的に年齢は問わないと思う。ただ、ゴミ問題は大きな課題で、必ず持ち帰るという鉄則を持つべき。
- ◆ 若年者は「叱られ慣れ」していない分モラルが低いし優しく無いのが多い。高齢者は同伴者の体力に過剰に挑戦的になる人が多く、無駄な体力の消耗や自慢気な言動などで揶揄が目立つし、同伴者の低体力者による事故も多いと思われる。
- ◆ 未組織の個人または省グループの活動のため、自然保護や安全登山について話し合う機会が少ない。
- ◆ 若者のマナーは決して悪くない。ツアー業者登山に問題あり。
- ◆ 山に向かう気持ちは人それぞれで、若者だからとか高齢者だからなどと分けてみる必要は無いと思っています。
- ◆ 若者、高齢者に限らずマナー違反者は必ずいる。私たち中高年登山者は早朝から思いザックを背負い行動できる体力がある。おたがいに譲り合う気持ちを忘れずにいたい。
- ◆ 若年と高齢者の違いはありません。
山に限らずに、人生としてのモラル、マナーを教えるべきです。
- ◆ ・自然の脅威、突然の天候不順対策をして登山を行う必要性を広く PR する。
- ◆ どのような違いがあるのか判然としませんが、山は特定の人、年代だけのものではないので、みんなが仲良く楽しめるようであってほしいです。
- ◆ 現在の登山者は自己本位であると感じる。
例：鎖場や岩場の不安定な場所で追い越しをする。
槍ヶ岳の取り付きから山頂まで長蛇の列の中、山頂で車座になり荷物を広げ食事と雑談をする若者が多い。
- ◆ 登山経験を積んでゆけば自然とマナーは向上すると思います。始めたばかりの人はまだよくわからないことが多いので基本的なマナーを簡単にまとめて全国の登山界に周知したほうがよいと思う
- ◆ マナーも登山の仕方もしんなり変わって居ないと思うが、交通の便、登山装備は良くなっているから若者はガイド等他人の企画で登山しているのでマナーに難点があり。
- ◆ 若者も高齢者も目指す場所は同じなのだから同じようにマナーを守るべき。
- ◆ 今の状況は、若者は体力増進のため、高齢者は余暇の暇つぶし的に山へ登っている。と思える人が多いです。もう少し自然を観察するなどしてゆとりを以て山歩きをしてもらいたい。
- ◆ ・若者・高齢者を比べて、体力の違いはあるが、そんなに登山の仕方・マナーに相違は無いと思う。あるとすれば 若者は目標・目的を持っての登山であり、常にリーダー等の役割が明白なため、登山形式・マナーはチームによって相違があると思う。 高齢者は目的のみの登山者が多く(目標無)、役割が不明確のため、各自の判断が多く、自分では気が付かないマナー違反が多いのでは。
- ◆ 山で出会う若者は純粋で、人の話を素直に受け入れてくれる場合が多い。ツアーなどで出会う中高年の方と比べると雲泥の差であるように感じる。もっと若者に話しかけ、こちらから年の差を意識せずに近づいていくことがよいのではと思う。年の差を感じるのは我々中高年ではなからうか。
- ◆ 若い人に道を譲っても、礼がない。
- ◆ 山に登ることは同じ。意識の高い低いはどちらにもある。山限らず、人に対する優しい気持ち、思いやりの心があればよい。これは山だけのものではない。
- ◆ 年齢関係なく、一部のマナーの悪い方はいます。
- ◆ ハイカーを含め現在の登山者のマナーは非常に良くなっていると思う「若者を信じよ

う」。私の遭遇する登山者のうち、残念ながら中高齢登山者の一部に意識の低い人が見受けられる。

- ◆ 組織化されていない若者は常識を教えてくれる人がいないのでルールを知らない。バカではないので教えることで改善される。学校教育など山登りなど取り入れることで改善できるのでは。高齢者は人生の中で税金ごまかすなど人が見ていないとルールを守らない。団体行動では表面的にルールをまもるが単独行ではごまかすようにしていると思う。昔に比べるとよくなっていると思う。文化の熟成度合によって、徐々に改善されてきており、社会全体に行き渡るには時間がかかる。継続した教育が必要と思っている。
- ◆ 若者と高齢者についてマナーの違いはない。マナーの悪い人は年齢に問わずいる。
- ◆ 違いはないと思います。
- ◆ 年代によって変化する。決めつけられない。
- ◆ 特になし
- ◆ 若者より高齢者の方がマナーが悪いと感ずることがある。
高齢者は注意しても聞き入れてくれない。
- ◆ 年代によらず、個人的な資質によりマナーは異なると考えている。
- ◆ 若者、高齢者と分けることはできないと思う、個々の態度次第だと思う。
- ◆ 若者より、高齢者（特に団体登山）に多く、マナーの悪さが目立つ。
- ◆ 楽しいから
- ◆ 若者のほうがマナーが良いと思う。
- ◆ 若者でも高齢者でも登山の仕方、マナーに関する意識は個人で違うので良い人もいれば悪い人もいると思います。
- ◆ 若者は比較的素直に意見やルールを聴く感性を持っていると思うので、その機会を作る必要があると思う
- ◆ 高齢者は自身の技量、体力で登山できる山を確認しながら登り次の登山の指標とする。
若者は自身を鍛える場、自然に親しむ場、自然を学ぶ場、目標は何でも良い、「遭難は何処でも、何時でも起こる」との前提で自己責任を定め登山する。
- ◆ 車社会で、老若問わず、簡便なルートでピークを踏む。現役世代は仕事のからみでやむをえない面もあるが、高齢の方はアプローチを含めて、山の自然とじっくり対話して欲しい。
- ◆ 若者に根気よく教える。
- ◆ すべての人は同じ
- ◆ 若者・高齢者ともに登山のマナーは以前（数十年前）以前に比べて非常に良くなっていると思う。
例えば、山での喫煙のマナーなどで……。
- ◆ 登山の仕方は若者と高齢者ではあまり違いはなく、経験の違いが登山の仕方に現れると思う。
マナーに関しても若者も高齢者も同じ、悪い人は悪い、良い人は良い。
- ◆ 今どきの若者はマナーはいいですよ。高齢者ほどマナーは悪いですね。
- ◆ 若者は、服装や山岳について、情報が豊富である一方、組織の中で登山の知識・技術・マナーを学ぶ姿勢に欠ける者が多い。
高齢者は気力や体力の劣ることや、山岳の地形や気象に関する知識を認識し、行動してほしい。
- ◆ 若者と高齢者で登山の内容が異なる時があると考えますが、マナーは若者悪く、高齢者良いと決めつけられず、登山に対する個人個人の考えで決まるものと考えます。
- ◆ 以前と比較してゴミのポイ捨てなど少なくなってきた。
- ◆ われら高齢者は山を自然の恵みとして尊敬、半ば修行的に感じているが。若い人は遊び、享乐的にとらえているのではなかろうか。
- ◆ 一部の高齢者こそ山のマナーが欠如している。高齢者こそ反省すべき。
- ◆ 登山の仕方は若者と高齢者ではあまり違いはなく、経験の違いが登山の仕方に現れると思う。
マナーに関しても若者も高齢者も同じ、悪い人は悪い、良い人は良い。
- ◆ かつては、たとえば山で生ゴミを捨てることに抵抗を感じなかったが、長きに渡りは山を歩いてきて、山の興廃した姿を多々目にした。また達成感や心の安寧など山に感謝する経

験を多く積んだ高齢者は、その感動を後世にも伝えたいと考える方が多いと思う。若者はまだ経験不足であるから、ベテランがその経験を伝えることで山のマナー向上につながるのではないかな…

- ◆ 若者と高齢者の違いで目立つことは、時間・財力メンでの余裕度、日程や自然に対する観察の余裕度、人への気配りなどへの余裕度のように感じる。
- ◆ 若者と高齢者というよりその人自身の性格・態度思いやりだと思う
- ◆ 若者の無謀さや高齢者の体力等への過信により遭難や自己につながるケースが多く見受けられるように思う。
- ◆ 若者が山に入っている、マナーに関し問題を感じた事はない。なかなか礼儀正しい若者しかみていない。
- ◆ 若い人は意識が不足気味。
- ◆ 高齢者は我がままな行動が目立つ。
- ◆ すれ違う時の挨拶をとったり、コミュニケーションが大切。
- ◆ 登山をする時は、適した装備をするべき。特に若者でラフな格好で登山する姿を見かける。
- ◆ 挨拶の徹底
- ◆ 登山道は狭く、険しいため若者、高齢者問わず、譲り合いの精神を持つことが大切だと思う。
- ◆ よくわかりません。
- ◆ 若者 ⇒ 情報を得られやすい環境にあるが、山やマナーに関する知識はいかにも浅い。
高齢者 ⇒ マナー違反の確信犯。プライドがあるのか、注意されると開き直り・逆切れ。
- ◆ 若い人へのマナーを教える。年取ってから人は、言うことを聞きたがらない（植物を採ったり、ゴミのポイステ等が目立つ。→ マナーを守らない。注意しても聞かない等）
- ◆ 若者も、高齢者も同じ扱いであり、区別する必要はない、意識は見えないけど、行為は見える。
年齢は関係がない。
- ◆ 若い人ほど自分中心的な発想が多いと思います。
- ◆ 若者はよく分かりません。最近では高齢者が多く、山で見受けれるのは登山道の道のゆずり方など基本的な事が出来ていない。力以上の山に平気で入る。よく事故ならないと感じています。
- ◆ 17 の設問の答えと同じです。若者の個人を持つ考え方や、高齢者の感謝の意識を持つ、の差でしょう。
- ◆ 若者はグループ。楽しみ方を知っている。高齢者はグループは団体旅行モード。ソロの人は趣味の地位発想をもって山に入る。
- ◆ 若い人とも一緒に登り、登山に対する基本的なマナー教えてゆくべきと思う
- ◆ 単純に年齢とマナーのレベルに相関があるとは言えない。マナーは生育環境に依存している。
- ◆ 山岳を単にスポーツの対象あるいは環境の良いそのフィールドとしか思わない傾向が一部の若い人たちの中にあるようだが、大多数は山岳自然の美しさ、気高さに感動しこれを大切にしたいと思い、その登り方やマナーも変わっていくだろう。従って、そこに若者、高齢者の本質的な差は無いように思う。経験を積んだ良き高齢者が適切にアドバイスしていけばよいのだと思う。
- ◆ 若者だから、高齢者だからとの区分する意図が分からない。
高齢者も若者も自分勝手の人は多い。
- ◆ 若者は山岳会に入りたがらない、仲間登山が多くマナーもよくない。
- ◆ 私も高齢者だが、長年の経験から、体力の低下と、それに合った山の選択の方法を心得ているつもり。最近登山を始めた高齢者は、基礎知識と体力がないことをあまり認識していないのではないかな。
- ◆ 観光的登山（登山地）を除いて、マナーの悪いのはあまり感じませんが、団体登山時にツアー登山者の中には問題があるのではないのでしょうか。
- ◆ 登山の仕方は肉体的（精神的）な違いであって、わかもの、高齢者の区別意識はない。マナーも同様。自然と親しむ機会を増やし、学ぶ心を j 育むことが大事。（年齢的には早いうちが必要。）

- ◆ 特に年齢によるマナーの違いは感じない、登山者もしくはその集団の意識の問題。高齢者は過去の経験・体力と今の状況の違いを理解しつつも実行動では無理をしがちである。現在の体力に応じた計画と行動をするように促す必要がある。
- ◆ 登山の仕方もマナーも年齢と関係しない。現場での教育が必要である。
- ◆ マナーを守らなければ、山の自然が保てない。
- ◆ ゴミをすてない。
- ◆ 私も中年ですが、山で食事したら必ずゴミは持ち帰ります。やはり自然を大事にする気持ちが違うと思います。
- ◆ そんなには違わないと思いますが、若い方は軽い気持ちで山に入られているように見受けられます。マナーも同様に感じます。
- ◆ 若者、高齢者との間にマナーの差異はないと思います。むしろ中高年女性の身勝手な行動が目につきます（うるさい、道を譲らな、非常装備がお粗末、山の知識を学ばない等）
- ◆ トレイルラン者との共生、ランナーのマナー不足？
- ◆ マナーとルールを守ってもらえれば、若者はおおいに山入るべし。高齢者もマナーを守って、山の自然を守ってほしい。
- ◆ 若者の登山マナーにかけたところは指導してあげる
- ◆ 両者とも思いやりが大事
- ◆ マナーは高齢者も若者も悪いのも良いのもある、意識の違いがあるとは思えない。

20 なぜ山に登るのかについて、あなたのご意見を伺います。（回答 93 件）

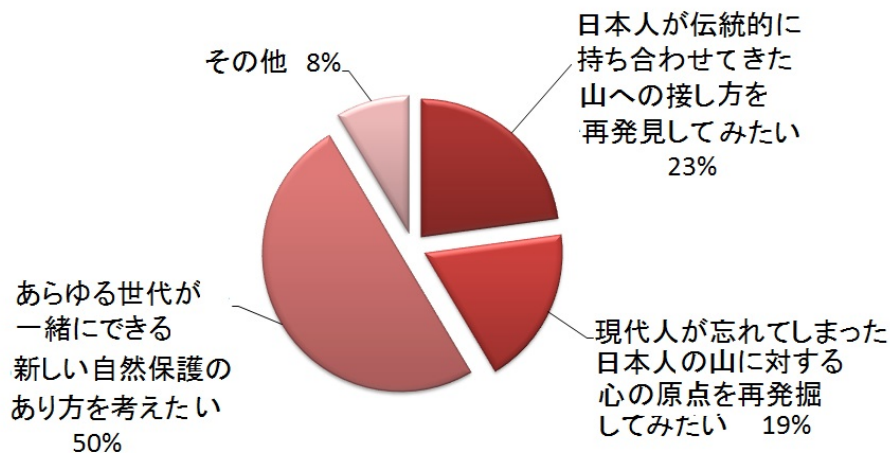
- ◆ 満足感や達成感を求めたり、自然に親しみ仲間と楽しく過ごすこと。
- ◆ 健康志向と自然を楽しむこと、友と山の内外でのふれあい、といったところ
- ◆ 自分への挑戦であり、目には見えないが山が心身のエネルギーをもたらしてくれる。
- ◆ 楽しい旅行
- ◆ 私たちの活動での創造性を豊かにし、忍耐力や精神力が力になる。
- ◆ 心身ともに健康に良い。
- ◆ そのことについてはあまり考えずに、まず山へ行くこと。
- ◆ 山が好き
- ◆ 苦しいけれど登りきったときの達成感、爽快感。日常生活では感じる事ができない気持ちのよさです。うまく表現できないですね！
- ◆ 日常生活の意識から離れ、登ることに専念＝夢中になれる。四季の素晴らしさを体験できる。
- ◆ ・心地よい疲労感が得られると共に、体力維持が実感できること、自然のすばらしさを体感できる。生命を感じられる、・・・とにかく体調維持に良いからです。
- ◆ 先の間にもあったと思いますが、トータルで考えると苦しさや面倒臭さ以上の満足感をもたらしてくれるからだだと思います。家で冷暖房の元快適に過ごすよりも、という意味で、です。満足感の中身は、知らない風物を見ることができた、今まで味わったことのない体験ができた、成長感もてた、などかな？と思います。
- ◆ 個人の感性で異なると思います。小生は気分転換やその他の目的で山に入る場合もある。
- ◆ 自然、人との出会いが心の豊かさが生まれるから。
- ◆ 永遠の命題ですが、山に行くたびに新しい感激(自然との触れ合いなど)が得られるのでからだ健康である限り登り続けたいと思います。
- ◆ 私の生まれたこの日本には、美しい自然が有るのに、これを見ず、体験せずにこの世を終わるのは寂しすぎると思うから。
- ◆ 一つはトレーニング、一つは心を豊かにするため、一つは自分が何をやり遂げる強い心を持ち続けるため。
- ◆ 孤独にならないように、同じ趣味の仲間を作って行動したい。山登りが一番理想に可成っていると思います。
- ◆ 下界より、山が好きだから。
- ◆ 島国日本に住んで、見上げれば山が見える。それほど身近である。地平に浮かぶ山を見上げるときに、「山のあなたに・・・」の詩に似た、山には希望とか願望とか期待感が自分の心に刺激をあたえる。そこに行ってみても期待道理でなかったとしても、何か充実感を

感じる。

- ◆ 「心」のバランスを維持するための一つに「登山」があるようだ。そこで体験するさまざまなでき事がより一層、人生を豊かにする。
- ◆ ストレス発散のため。
- ◆ 自然に対する「あこがれ」
- ◆ これは難しい設問であり回答に窮する。あえて書くならば「そこに山があるから」だ・・・と。
- ◆ 自然とのふれあい、開放感を得るため。
- ◆ 好きだから。
- ◆ 好き
- ◆ 人生そのもの
- ◆ 日常では感じられない自然の息吹を感じるため
- ◆ 自然の中で生きていることを実感するため、自分も地球上の一部と再確認する。
- ◆ 心の安らぎとともとの交流
- ◆ 日常の生活の一つとして山登山があるから
- ◆ 苦しいことも多いのですが、それのも増して山の名に身を置き、山の自然と触れ合える心地良さ。
- ◆ 山が好きだから
- ◆ 自然の脅威や素晴らしさを体験することが人には必要
- ◆ 登頂した満足感を得るため。自分の体力を確認するため。自然に接するため。
- ◆ 山と限らず自然は、すべての人に平等に美しさ、楽しさ、安らぎ、を与えてくれますが、時として厳しい試練も与えてくれます。驕らず謙虚につきあうて行きたいとおもいます。
- ◆ ● 適度な運動による心の充実感を得られる。
 - 一人であることを実感できる。出来事を原点に立って考えるきっかけを得られる。
 - 桃源郷を見たい。
- ◆ 日常生活から解放され、自然の中に身を委ねると、何とも言えない爽快感がたまらないです。
- ◆ 不安の中、可能かどうか検討し、実践、総括し次に活かす。これを50年以上やってきて、未だあきない。ほこるような記録こそないが関東限定ではあるが、山頂や山村、地形等、現場で判るもろもろのことが体験できて、これからも続けたく思う。
- ◆ 自然の厳しさを感じながらのぼる。
- ◆ ただ好きだから。山での開放感がよい。
- ◆ 楽しいから、その一言です。
- ◆ 開放感が得られ、達成感もある。
- ◆ 自然の中での人間の営みの大きさ
- ◆ 50歳~60歳までは高い山登山したい、冒険したの一心でしたが、歳を重ねるごとに健康のため、四季折々の自然を楽しむようになった。
- ◆ 1. 自然環境の厳しさを体験する心と農耕や狩猟に与える影響の大きさを敬う気持ちから、又、信仰と修行の場として山岳を知るため。
2. 有酸素運動のひとつの登山は、健康な体をつくることから山に登る。
- ◆ 自然を経験してみたいこと、知人や友人交流できること。ヨット生活にも通じる。個人の心情が危機にあったときの行動に結びつくこと。
- ◆ 山には多くの自然との触れ合いがありこれが一番よい。
- ◆ 無理に答えを求める必要はない。恋愛と同じで、好きになった理由などは後から無理にこしらえたものである。
- ◆ 自然に触れたい為。自然観察を奥深く行きたい為。
- ◆ 開放感が得られ、達成感もある。
- ◆ そこに山があるから…
- ◆ 厳しい自然の中で山に登っていると、とても謙虚な気持ちで山に向き合うことができ、一皮向けた成長を感じることができるため。
- ◆ 健康のため
 - 環境の変化を楽しむため
 - 普段と違う友達との交流
- ◆ 自己啓発と心の安らぎまた自然に触れ美しい計器をみて心の安らぎと充実感を感じるため

- ◆ 人間が造ったものでなく、非日常的、属世界からの脱出する事により、本来人間も持っている動物的本能を甦らせる場所である。理屈ではなく、欲する場所と思う。
- ◆ 自然との触れ合い。自分との闘い。
- ◆ あまり難しく考えず、単に楽しいから登る。
- ◆ 生活や仕事から離れたい。
- ◆ 生命の充実。耐える意欲が出る。
- ◆ 自然との触れ合い。こころが清らかになる。
- ◆ 健康のため。達成感を味あうため
- ◆ 自然委触れ合うことで疲れをとりたい。
- ◆ 健康のため。自然と触れ合うため。
- ◆ 自然に触れることで、日常から解放されるため
- ◆ 自然の純粋な心と社会生活の共存を結びつけるため。
- ◆ 地域の山の環境を健全な状態で次世代へ引き継ぐため。
- ◆ 自己の充実感、自然の恵みに感謝。
- ◆ 疲れるため。
- ◆ 登り始めた時も、現在もまだ自分に問い続けています。
- ◆ 四季折々の季節感を感じる事が何よりだし、限界への挑戦と達成感。
- ◆ 山の空気に触れ合うため。
- ◆ 山に登れることは、自分の生きている証です
- ◆ この種の質問の意図が理解できない。なぜこの様な項目が必要なのだろうか。
- ◆ 趣味の中で、山登りが最も自分の感情に合い、その実践が生きがいの一部になっている。それは、以下のような要素があるからだろう。
 - ・豊かな優れた山岳自然景観、多様な植物、鳥獣、生物に会える
 - ・山岳自然の中で、自分の肉体が動き、生きていることを感じられる
 - ・山岳スポーツ（山スキー、岩登り等）を行うため
- ◆ 自然の懐で人間は生かされている。その自然の中に飛び込んで、明日への活力を得ることを望んで、山へ入っている。
- ◆ 自然に親しむ、また、仲間との触れ合い。。
- ◆ 人の持つ自然への畏れや感動にお体験を通して、生きている喜びを楽しむため。
- ◆ 山（自然）の中で自分を追い込み、達成する喜びを得るため。
- ◆ 体力作り
- ◆ そんな理由付けは不必要。楽しいから登るに決まってる。ただしその楽しさの中身は人それぞれなんだろうね。
- ◆ ・行った山、行きたかった山で来し方行く末を想う
 - ・自分が健康であることの証として、
 - ・美しく感動的な自然を大切な人に見せてあげたい。
- ◆ 簡単に言えば、山の自然に触れることこそ、自分に必要なことと思います。（前向きに生きること。）
山が好きだからでしょう。厳しい中に豊かさや喜びがあると思います。
- ◆ 楽しいから。
- ◆ 山頂から下界を見下ろすのがうれしい。山で食事をするのがおいしい。
- ◆ 自然のありがたさを大切に後世に引き継ぎ地球環境の変化を多少なりとも観察出来ればと考えている
- ◆ 第一義に健康のため。それを継続させるための自然とのふれあい大切にする。
- ◆ 自然との共生
- ◆ そのにやまがあるから・・・大自然の懐に入れるから。
- ◆ 頂上までの期待感
- ◆ 健康維持に加え自然観察その中で仲間との絆を深める
- ◆ 第一は健康、第二は達成感、自然との触れ合いと眺望

2 1 山に向かう心の意識について、あなたのご意見を伺います。



その他のご意見又は補足説明などがあれば記載ください。(回答 23 件)

- ◆ 日本は国土の7割が森林。緑、きれいな水があることが当たり前の生活をおくっているが、それがどんなに大切なことかを一人一人が自覚し、考えてほしい。
- ◆ 難しい選択ですね。
「伝統的に持っている山への接し方」「忘れてしまった山への原点」とは何ですか？教えてください。
重い選択回答がわかりません
トレイルラン、マウンテンバイク等の入山禁止、バイクでの山岳道路のツーリング禁止すべきです。
- ◆ 上の項目のような大それた理由で登ることはまずないと思います。山は日常にはない”自然”と”自由”があるからではないかと思えます。だから、それを味わえないような管理登山になれば、山へは行かないでしょう。少なくとも私は。
- ◆ 常に山の天候状況を判断しながら登山をしています。今日は山が登山を許してくれているんだとか、今日は帰ったほうがいいよと言っているように感じたり、常に山と対話する感覚でいます。
- ◆ 山に向かう気持ちは、日頃の生活環境によって変わってくる、特に強い意識を持って登山した思いはなく、一時夢中に成っただけかな。
- ◆ 自然からいろんなことを学びそしてその自然を守るということを誰もが理解し出来るような自然保護を考えていきたい。
- ◆ 無心にて、のんびり登山をしてみたい。
- ◆ 忘れられてしまっているかも知れないが、古来から伝わる山への思い、自然へ恵みへの感謝など、日本人のDNAの中には、きっと息づいていると思う。
- ◆ 「人生」を豊かにする(と思っているが)「登山」を続けて行きたい。
- ◆ 自然のもとで一人の人間としての存在感を見つめる。
- ◆ 山の自然の変化に気づく気持ちを持って歩くためにも、日頃からトレーニングに励みましょう。
- ◆ 好きなフィールドをいつまでも変わらずに存続しておきたい。
- ◆ 山への感謝と山への畏れを多くの人に持ってもらうことで、自然保護への理解が進むと思う。そうした感性を大事にする社会を目指すべきだと思う
- ◆ 山岳宗教と登山者、日本のみかもしれないが、共通する理念を持っているのではないか。街にいるとき、山を想う中で、山の生活生業を知ったうえで実行すると、ほかに多くの収穫がある。その上で山頂を踏んで欲しいと思う。
- ◆ 歳をとっても山との触れ合いはしたく、そのためには日頃トレーニングなどして身体を鍛えたい。

- ◆ 必ずしも「山に向かう心の意識」を定義せずとも、山に行って自然にふれあい心が豊かに満たされることも多く、それはそれで自由な気持ちは尊重したい。その上で、日本人がというよりも自分が山に向かう接し方を探ってみたいと思う気持ちが強い。自然保護についてはみんなが意識して欲しい。
- ◆ 人間も、山の動物と一緒に生物なのだ。動物が住みよい環境は、人間も行ってみみたい場所なのだ。動物が住みよい場所にするかしないかは、人間の意識による。
- ◆ 心身の最高の状態を常に確認しそれに挑戦するため。
- ◆ 故郷の山を誇りの持つようにする（学校登山の必要性。今の先生達が学校登山を知らない人が増えてきている。）
- ◆ 山＝山の神＝恐れの対象・・・これはもう古い。山＝自然＝環境の一部＝守るべき・・・これが今の一般ちえきな考え。
- ◆ 質問の意図が理解できない。何を意図して質問するのかをもう少し明確にすべきである。
- ◆ 自然保護の為に登るわけではない。伝統的な山への憧れでもない。この三択の質問は無意味。回答はすでに今までの質問にある。
- ◆ 高齢者は、高齢者こそができる山登り（百名山登山などを目的としない）、自身の体力にあった山へ行く、昔行った山への再登や思い出の

調査を終えて

今回の調査にあたり、9 地区 25 都道府県から 147 名の方から回答を頂きました。ご協力、誠にありがとうございました。加盟団体の自然保護委員の方々に取りまとめをお願いいたしまし収集となりました。回答をいただきました年齢層につきましても 30 歳未満から 60 歳以上まで、件数の違いこそあれ広く回答をいただきました。回答収集に自然保護委員の協力得た点から、山の自然保護に比較的理解のある層の方々の回答と考えております。

アンケートの回答には次の方法で頂きました。

回答方法	件数
ソフトデータのメール回答	75
紙回答手渡し・郵送	58
FAX 回答	14

半数の回答がソフトデータのメール回答となり集計作業が半減いたしました。ご協力を重ねて感謝いたします。

コメントを記述する箇所については、手厳しいご意見を含み、真摯な意見として重く受け止めております。設問の 15、19、20 では 90 件ほどの回答を頂き、今回の設問中で多く関心を寄せる点かと受け止めています。

今回のアンケートの設問を作りにあたって、回答を予想して設問を作ったわけではなく、まず何かを投げかけてみようとの考えでの設定となりました。難解で意味不明との指摘も頂きましたが、コメントで回答いただく設問いたし、設問よりも説得力のある回答が寄せられてと思っています。

アンケートの回答を纏めるに当たって、記述されたコメントに対し、分析が必要との意見もありましたが、加工を加えず、ありのままを報告するのが相応しいと判断いたし、コメントの列挙とさせて頂きました。



発行元
公益社団法人日本山岳協会 自然保護委員会
〒150-8050 東京都渋谷区神南 1-1-1
岸記念体育会館 4F
TEL 03-3481-2396 FAX 03-3481-2395
HP www.jma-sangaku.or.jp